

## 5月2日付ミリエット紙（トルコ）安倍総理の書面インタビュー

### 1面

（大見出し）原子力で最高の安全性を提供する

安倍晋三日本国総理大臣はトルコ訪問に先立ち、ミリエット紙の質問に答えた。今回の訪問において合意が予定されている原子力発電所の建設について、「我々は福島から教訓を得た。トルコを含め全世界に対し最も安全な規格を提供したい。」と述べた安倍総理は、イラクにおける両国の企業間協力を求めた。また安倍総理は、和平プロセスを支援すると述べた。

### 23面

（1）（大見出し）我々は最も安全な原発技術を提供する。

2日間のトルコ訪問に先立ち、ミリエット紙の質問に応じた安倍晋三日本国総理は、「トルコを含む全世界に対して、最高技術を有する原発技術を提供したい」と述べた。

（2）記事冒頭

安倍晋三総理は、2日間にわたるトルコ訪問前に、自らの考えを説明するためにミリエット紙を選んだ。安倍総理は、レジェップ・タイップ・エルドアン首相の招待に応じて今日と明日、トルコを公式訪問する。安倍総理は、エルドアン首相との首脳会談の後に、シノップにおける原発建設に関して、正式な決定がなされることが見込まれる。安倍総理はミリエット紙の質問に対して次の通り書面にて回答した。

（3）記事内容

（「30年前に父親とトルコを訪問した」との小見出し）

（問1）2013年3月6日に行われたイスメット・ユルマズ国家防衛大臣の貴総理表敬訪問において、貴総理は防衛や科学技術の分野における二国間の発展のために計画されたプロジェクトがあると述べられた。こうしたプロジェクトが、今回のトルコ訪問につながったのか。

（回答）

私は、総理に再び就任して以来、トルコを早く訪れたいと考えてきました。今年にはトルコ共和国建国90周年という節目の年であり、今回の訪問を通じ、エルトゥールル号遭難事件以来の友好関係を強化させたいと考えています。父の安倍晋太郎は、ちょうど30年前、日本の外務大臣として初めてトルコを公式訪問した際に同行しました。東日本大震災の際に、トルコから多大なご支援を頂きました。今回の訪問では、トルコとの戦略的パートナーシップを構築し、エネルギー分野等におけるいくつかの協力案件を発表したいと考えています。

（「我々は（クルド問題）和平プロセスを支持する」との小見出し）

（問2）昨年イスタンブールにて開催された日本トルコ経済フォーラムでは、両国

がイラクへの投資を目的に協力することが話し合われた。トルコがクルド問題の解決に向けた一歩を踏み出した現在、トルコと日本はどのような協力関係が築けるか。

(回答)

我が国政府は、トルコ政府によるクルド問題解決に向けた動きが地域の安定につながることを期待し、「和平プロセス」を支持します。復興・経済成長が続くイラクに関し、日本企業の関心は高まっています。トルコ企業はイラクでの経験も深いです。日本企業は、イラクのエネルギー、建設、医療分野等で活動しており、これらの分野でトルコ企業とも連携していく可能性があると考えます。こうした協力の方途の一つとして、2012年10月、JBIICと複数のトルコの民間銀行との間でトルコ及び周辺国向けの融資枠が設定されました。本協定により、トルコの地場企業がトルコ及びその周辺国で事業を行う際に、日本から機材等を購入するための資金調達が容易になり、日本企業とトルコ企業の第三国での協力が促進されること及びこうしたパートナーシップが、第三国において進展することを期待します。

(問3) 福島原子力発電所の事故のような災害が再び起こることのないよう日本において採られている対策は十分だとお考えか。

(回答)

徹底した事故の検証を行い、海外の規制基準も確認しながら、独立した専門機関である原子力安全規制委員会が世界最高レベルの安全水準の基準を、この7月に決定します。

新規制基準に適合すると認められた場合には、その判断を尊重し再稼働を進めます。原子力の国際協力について、福島の実験と教訓を世界に共有することにより、世界の原子力安全の向上に貢献していくことは我が国の責務であり、貴国も含め、世界最高水準の安全性を有する技術を提供していきたいと考えています。

(「我々は北朝鮮のために備えをしている」との中見出し)

(問4) 北朝鮮で生じている最近の動向により、日本も属する地域へ注目が集まっている。日本には50近くの米軍基地と4万7千人の米兵がいる。北朝鮮問題に関し、どのようなお考えか。

(回答)

北朝鮮による核開発は、国際的な核不拡散に対する重大な挑戦であり、地域及び国際社会全体の平和と安定に対する脅威です。北朝鮮が、我が国に対する核攻撃に言及するなど、挑発的な言動を繰り返していることは極めて遺憾です。我が国は、米国及び韓国、さらには中国やロシアをはじめとする関係国と引き続き緊密に連携し、北朝鮮に対し、一連の安保理決議を完全に実施し、いかなる挑発行為も行わないことを強く求めています。我が国政府は、北朝鮮情勢について、重大な関心を持って不断に情報収集・分析に努めており、在日米軍間の協力を含め、不測の事態に備えて我が国の安全を確保するために万全の態勢をとっています。

(問5) 中東における関係が大きく改善された中、日本の中東和平政策について伺いたい。

(回答)

トルコとイスラエルが最近、関係の正常化に合意したことについて、日本として歓迎したいと思います。日本は、二国家解決による和平実現を支持し、イスラエル・パレスチナに早期の交渉再開を求めています。日本は、パレスチナの国家建設努力を支援しており、93年以降、約13.5億ドルの支援を実施しています。パレスチナ、イスラエル及びヨルダンと協力し、パレスチナの社会経済の自立化を促進するため「平和と繁栄の回廊」構想を、私が前回総理を務めた時にスタートさせました。